

令和元年度岡山県地方独立行政法人評価委員会(第1回)の議事録

- 1 日 時 令和元年5月14日(火)10:00～11:30
 2 場 所 岡山県庁3階第2会議室(岡山市北区内山下2-4-6)
 3 出席委員 萩原委員長、秋山委員、小田委員、清水委員
 4 議 事

- (1) 公立大学法人岡山県立大学 平成31年度 年度計画について
 (2) 公立大学法人岡山県立大学 役員に対する報酬の支給基準の変更について

【要 旨】

4 議 事

- (1) 公立大学法人岡山県立大学 平成31年度 年度計画について
 ・公立大学法人岡山県立大学より説明

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>競争的資金の採択率等で、現状に対して目標の方が低い項目がいくつか見られる。目標は、通常、現状よりもアップするものであると思うが、低くしている理由は何か。</p> <p>TOEIC関連についても、現状では伸び率が0.42点であるのに対して、目標が0点以上というのは、目標として消極的だと思うが、如何か。</p> <p>新しい中期計画の実施初年度なので手堅くというのはわかるが、もっとアグレッシブな目標を設定すべきでないか。また、志願倍率の目標を3.3倍以上に設定してはどうか。</p>	<p>成果指標において、本年度の目標が21件であるのに対して現状は21.5件ですが、これは平成25年から平成30年の6年間の平均を取ったものです。特に国の予算額や科研費もどんどん絞られてきており、段々厳しい状況になっています。</p> <p>科研費等は、国からの資金が決まっています、だいたい国公立大学が獲得できる額は決まっています。加えて、年度差があり、前年がよければ今年は低くなるという傾向があり、必ずしも毎年上げていける数値ではないことから、ご理解願います。</p> <p>昨年は1年次から2年次がマイナスだったこともあり、とりあえず落ちることのないようにということです。ただ原因もいろいろ分析しており、ちょうど実習や演習で外へ出向く時期に試験の日がぶつかるといったことがありました。今回はともかく1点でもいいから上げる、0点以上に持っていくということで設定しています。</p> <p>また、本学の開講形式として、従来は前期・後期のセメスター型でしたが、学習成果が上がるであろうということで、現在は1年を4分割するクォーター型をベースとしています。</p> <p>ところが英語に関しては、実際にそのような開講をしたときに、本学では英語の教員数が限られているということもあって、週2回の開講というのが実はあまり学習成果を上げにくいようなやり方になっていたということがわかりました。従って、来年度からは英語に限ってセメスター型に戻して、それぞれのクラスを同じ教員が週1回きっちり見ていきます。それに加えて、英語のネイティブの教員も、必ず卒業までに1回もしくは2回は授業を持つような方向に改善し、英語についての開講の仕方を改めることにしました。そのため、実は昨年度は全学平均点が6.27点マイナスになったのですが、今年度は上がる方向へということで目標を0点以上と設定したという次第です。</p> <p>私どもも、目標は高い方がいいと思っています。ただ少子化の進行もあり、少なくとも今以上という目標は決して簡単に達成できるものではないと考えております。6年後にはこの倍ぐらいになっていると非常にありがたいと常に思っていますので、県大は変わる、チャレンジするとお考えいただければありがたいと思います。</p>

図書館についてであるが、参考資料で附属図書館の利用状況満足度というのがある。この利用状況というのは、どういふふうに把握しているのか。

各種講習会や県と連携した寄附講座を開催するとあるが、ここでいう寄附講座というのはどういふものか。

「地域貢献活動の充実に関する目標を達成するためとるべき措置」中の各種講演・講座の対象となる地域は、県下全域なのか。

FD (Faculty Development: 大学教員の教育能力を高めるための実践的方法) や SD (Staff Development: 事務職員・技術職員又はその支援組織の資質向上のための実践的方法) の活動で、最近アドミッションオフィスのスタッフや IR (Institutional Research: 大学の経営改善や学生支援、教育の質向上のため、学内データを収集・分析し、改善施策を立案、施策の実行・検証を行うといった広範な活動) のスタッフの教育及び研修についてかなり言われているかと思う。大学の職員の研修教育について、何か具体的な計画や目標はあるのか。

利用率や人数等は当然カウントできますので、把握しております。学生のニーズの把握につきましては、年に2回、図書館の方で、全学の学生対象にアンケートを実施しています。そちらの方で例えばどういった分野の本が足りないと思っているかだとか、もっとこういう本を置いて欲しいとか、統計を取っていて、それを図書館の運営委員会に諮り、今年はどういふ事業を組むか考えています。

図書を購入する予算の制約もあって、やはり学生にとってニーズや利用度の高いものを優先したいと考えています。そのため、アンケートを取る他にも、例えば学生を書店へ連れて行く選書ツアーや、いろいろな書籍会社の社長を呼んで、図書の発行についての内容等を聞くようなセミナーを設けています。

もう1つ、学生のニーズを充足するのにやはり限界がありますので、県立図書館とネット連携して、県立図書館の本を県立大学でも借りられるようにしています。その際には、県立大学でも県立図書館の会員になれるシステムも取り入れています。

講座にはいろいろありまして、例えば1000万円というまとまったお金を教員の人件費や各種講義の開講に係る費用に使用する場合と、もう1つは、普通であれば何十万という謝金を払って呼ぶような方や、現在、副知事さんをノーギャラでお呼びしていますが、そういった方に県大の若い学生のための公開講座等を行っていただく方法があります。それから、お金をもらっているいろいろな教材を開発し、それを大学で開講して、学生だけではなく社会人の方や技術のエンジニアの方も参加可能ないわゆる一般的な寄附講座についても、現在企画しているところです。

全ての市町村という意味ではありませんが、本学はCOC+事業を展開しており、6市と連携して地域創生コモンズを設置しています。ここでは、公開講座だけではなく学生ボランティアが地域の課題を発見しに行く取り組みもあります。コモンズを拠点としているいろいろな地域に入り込んで、その地域の課題を解決するといった活動もやっている最中です。コモンズは、県北の真庭をはじめ、備前、笠岡とかなり東も西も網羅できるような形でやっていますが、COC+は9大学が参加しているので、県大だけで動けるものではないのです。協力校と一緒に動くような形や、未定ではありますが大学コンソーシアム岡山の方と一緒に、参加大学をもっと増やしてオール岡山でこれからやっていってはどうかということも考えているところです。

開学当時は全員県の職員で、県の昇任時研修やパワハラに関する研修、業務の能率を上げる研修等、様々な分野の研修がありました。しかしながら、本学もだんだんプロパー職員への置き換わりが増えていきます。そうした中で、まずは人事の登用、人材の育成についての計画を今、一所懸命作っているところです。

当然、計画作成過程において研修の充実もありますし、現時点では、公立大学協会の研修や県職員研修への参加を促すレベルなのですが、人材育成計画も立てている最中なので、そういうものと対して考えていきたいと思っています。

デザイン学部の学生は卒業すると地元に残らないで都心の方に行ってしまうということを聞いたが、対応策は検討しているのか。

住民対象の講座とは別に、リカレント教育について、カリキュラムとしては難しいが、商大では社会人向けに講座を開設し、キャンパスも訪問しやすくしていると聞く。県大のファンづくりにつながるような、地元向けの企画をいろいろしていただきたい。就実大学は、駅の誘致や総合大学化の方向での運営など戦略に基づき経営している。戦略・戦術を持ち、ブランド力強化、特徴づけ、マーケティングをし、きりと光る特徴を持った大学になるようアピールして欲しい。

一方で、我々企業側ももっと大学を活用できるよう企業の事業内容等について、プレゼンしていく必要がある。

また、今でも県大生のポテンシャルは非常に高く、即戦力になると評価しているが、引き続き、質実で粘り強い学生を育成し、5年後10年後もしっかり競争の中で生き残っていけるよう運営に努めてもらいたい。【要望】

改修・修繕に関連して、以前のことになるが、ソフトウェアの更新において、資産計上と費用計上の区別が甘いと思う。

平成30年7月豪雨の影響で、いろいろな経済状態になっている生徒がいると思う。奨学金・授業料減免など経済的に困った学生へのサポートと書いてあるが、これは県大特有の制度なのか。また、経済負担軽減制度というのはどういう制度か。

就実大学で、岡山朝日高校と城東高校の学生を、経営学のボランティアプロフェッサーの講座に呼んで、ある種、高校生のファンづくりという点で、上手な企画を行っている。参考にしてはどうか。

学部によって、かなり就職先の地元定着率というのにはばらつきがあるのは事実です。6割、7割近い学部もあれば、残念ながらデザイン学部については、4割くらいの数値で推移しているところでは、デザイン領域というのは、広告会社や印刷会社だけではなく、いろんなメーカーの製品を作るときにも必要な概念だと思うので、そういう切り口で就職先を把握することは重要ですし、またいったんそういう就職先を経て、地元で貢献したいと再びこちらに帰ってきて活躍の場を求めるといった相談にも乗れるような体制も重要かと思っています。

確かに、中央志向が高いです。そこで、県内の学校推薦型入学者の割合を減らさないように努めるということと同時に、県外からの学生を県内に定着させようという一つの試みとして、令和3年度入試から総合型選抜というのを導入することを検討しておりまして、今のところ県外の学生の中でも岡山県に対して非常に興味がある学生、それから岡山県に愛着があるような学生を何とか集めようということで、例えば岡山創生学での受講意欲を評価対象にすると、おそらく県外からより県内志向の学生が増えてくるのではないかと今考えて計画しています。

監査法人に定期的にチェックを受けており、指摘があれば是正し、適切に処理していきます。

真備の水害につきましては早急に学内協議しまして、すぐ学費の減免の対象になるように被災学生については措置もさせていただきました。具体的には、授業料の全額減免と半額減免があります。また職員用住宅で空いているところもありますので、たちまち本当に通えない、自宅が水没して、いろいろな常備がない学生をそちらに収容してお預かりするといった手配をさせていただいたところです。これは本学の判断として行っています。

COC+の関係になるのですけれども、総社高校の校長先生たちがお越しになられまして、地域創生学で地域志向型の学生さんを教育しているとおっしゃられました。あそこは我々のところという岡山学を総社学として学んでいます。ですから、単位とまで言わなくても、一緒に高校生がお越しになられて、いろいろとこちらも享受できるような仕組みを作りましょうと去年ぐらいから練っております。一つずつそういうことをやらせていただいておりますので、ご理解いただければと思います。

(2) 公立大学法人岡山県立大学 役員に対する報酬の支給基準の変更について

・公立大学法人岡山県立大学より説明

委員発言要旨	大学・事務局発言要旨
<p>ただいまの説明のように、県と同じにするということですが、何か意見がありますか。</p> <p>特にないようですが、このとおりの改正でよろしいか。 （「よろしい」の声）</p> <p>それでは、公立大学法人岡山県立大学 役員に対する報酬の支給基準の変更については、地方独立行政法人法第56条の規定により準用される、同法第49条第2項の規定に基づく評価委員会の意見は「特になし」としたいと考えますが、よろしいか。</p> <p>各委員 異議なし。</p>	